



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97.6.2 No. 4606

国鉄債務のJR負担は、 第二の分割・民営化攻撃だ

旧国鉄債務処理
の主な選択肢

方法	主な内容	反対論・問題点
①一般会計への 付け替え	有利子債務を移管し 無利子債務で処理	単なる負担のつけ回しで 根本的な解決にならず
②財投の繰り上 げ償還	財投から高金利で借 りた債務を借り換え	郵貯や厚生年金へ国民負 担を押し寄せするだけ
③無利子国債の 発行	相続税を軽減する特 典を設け利払い軽減	税制全体をゆがめ、税の 公平性でも問題がある
④鉄道利用税	国鉄改革の受益者と して利用者負担要求	JR利用者に限定できず 鉄道の競争力が低下
⑤JRの追加負 担	清算事業団の国鉄年 金負担分や、国鉄改 革後の利益を還元	国鉄改革時の決定に反す る。JRの株主から反発 も。上場にも影響
⑥道路財源の転 用	総合交通体系からの 収入とみなし財源に	揮発油税、自動車重量税 とも納税者理解得られず

情勢の急展開

「十年」というタイムリミットをめぐって国鉄闘争をめぐる情勢は急展開し、十年間の闘いの一切が問われるような最大の正念場を迎えた。

橋本政権は、二兆八兆円に膨れあがった旧国鉄の長期債務問題と、一〇四七名問題を一括決着するとの方針を固め、第二の分割・民営化攻撃ともいえるべき、新たな国鉄労働運動絶滅攻撃に踏み出した。分割・民営化体制の全面的な行きづまりにあえぎ、もはや山積みになった矛盾の「処理」を先送りする「こと」もできない事態に直面して、いよいよ正面突破をはかる攻撃に打って出ようとしているのだ。

第二の分・民!

橋本政権は四月、自民党の「国鉄長期債務問題特別委員会」や「財政構造改革会議」での検討を経て、二兆八兆円問題の「処理方針」について、土地と株式の売却や国民負担に大増税というこれまでの方針に加え、「一部JR負担」を盛り込むことを明らかにした。

また橋本は、JR東日本松田社長や西日本の会長・社長らを直接呼び、累積債務の追加負担について通告を行なった。JR本州各社は表向き「反対」の態度を表明しているが、自らの地位を守るために、事実上の了解を与えていると言われている。

危機と凶暴化

また「JR負担」は、極めて意図的にもちだされたイデオロギイ攻撃という性格が強い。長期債務の大半を国民負担とするためにも「JR負担」が強行されるようとしているのだ。また「三〇年で返却するとして四兆六兆円を超す」(運輸省の試算)という第二の国鉄的状況を煽りたてて、新たな国鉄労働運動根絶攻撃が激化しようとしている。

第二に、「JR負担」問題が、JR東日本とJR総連・革マルとの組織攻防戦を決定的に激化させることは間違いない。

勝利の展望は?

これは、延命のためにこれまでに以上に国鉄闘争の解体・絶滅の先兵となることを宣言したに等しいことだ。実際JR総連・革マルは「裁判所の判断が下されれば一〇四七名問題に終止符が打たれる」「国労の敗北は必死」と叫び、反動判決を待望して襲いかかろうとしている。

しかし、もはや政府-JR当局-JR総連・革マルの間の矛盾・あつれきは修復不可能だ。JR体制を打倒し、国鉄闘争の勝利の展望をひらく決定的なチャンスが到来している。

「長期債務のJR追加負担」とは、まさに第二の分割・民営化攻撃に他ならない。「JR負担」がまねくものは、何よりも第一に、新たな大合理化と首切り・権利はく脱・賃下げ攻撃であり、国鉄労働運動解体攻撃だ。

「追加負担」は、無謀な合理化攻撃と労働者への犠牲転嫁を暴走させ、一〇四七名の解雇撤回闘争を中心とした国鉄闘争の解体に向けた衝動を激化させる。

橋本は、明らかに二兆八兆円問題と一〇四七名問題の「一括決着」を狙っている。だからこそ、東京高裁は、政府の意を受けて、北海道・九州採用差別事件の五・二八結審をもって、反動判決のどう喝と「和解」の提示をテコに、国労を連合化の道に引きずり込み、清算事業団闘争を解体しようとしているのだ。

「JR負担」は東日本の革マル結託体制を最大の窮地にたたしている。「国鉄改革」の枠組みが変わるといことは、彼らの存立基盤が崩れることを意味する。だからこそJR東日本と東労組は、この間「一切の外部勢力の介入・干渉を排除する」という第三次労使共同宣言を締結し、口を極めて「政治介入反対」を叫んできた。松崎に至っては、「政治介入に対し毅然と闘う松田社長を守れ」と連呼するまでに危機感をつのらせた。

しかし、JR総連・革マルは、「追加負担」が本気だと見るや、自らの生命線であるJR東日本との結託体制を維持するために、これまでの態度を一変させ「JR負担容認」に舵をきった。二月の定期中央委員会では、「政治介入反対」で満展開されていた議案書を急遽ボツにし、議案書なしで定中をのりきり、政府・権力に忠誠を誓ったのだ。

われわれは、長期債務のJR負担にも、国民負担に大増税にも絶対に反対する。闘いの勝利の展望はJR体制と真正面から対決し、国鉄闘争の高揚を水路として、行革・規制緩和攻撃、大失業と戦争の時代をはね返すような労働運動闘争の再生を実現することのなかにある。

危機にたつ橋本政権は、安保条約の抜本的改悪(今秋ガイドライン改訂)と沖縄闘争圧殺、労働法制の全面的な改悪をはじめとした行革・規制緩和攻撃の断行、そして国鉄闘争解体を「国家の生き残りの道」と定めて、激しい攻撃を仕掛けてきているのだ。このことを見すえて闘いぬこう。公労法解雇全面撤回をかちとった動労千葉の勝利は、国鉄闘争の展望を鮮明に示した。この勝利をステップに、一〇四七名の解雇撤回、第二の分割・民営化攻撃粉碎、JR体制打倒に向け総反撃の闘いに起とう!